事例紹介資料①（研修配布用）

事例①：A 市立図書館における生成 AI 活用研修

A 市立図書館では、2024 年度末に生成 AI を活用した職員研修を実施しました。この研修は、図書館の将来像を職員が主体的に構想する契機として、生成 AI（ChatGPT など）に関する基礎知識の習得と、実践的なアイデア創出を目的に企画されました。

研修では、生成 AI の基本的な仕組み、公共図書館での活用例、館の課題に対する AI 提案の紹介などを含む講義の後、職員同士によるグループ対話や AI への質問づくりワークショップが行われました。

参加者アンケートでは、「AI によるアイデア支援の可能性」「イベントや空間活用への応用」「業務効率化への期待」など、活用意欲の高まりが確認され、組織としての導入に向けた声も複数寄せられました。

本研修は、単なる技術導入の学びにとどまらず、生成 AI を通じた共創と職員の内発的動機づけを促進するものであり、小規模自治体の図書館における創造的学習モデルの好事例といえます。

事例②：B 市立図書館の市民協働型ワークショップ講座

B 市立図書館では、2024 年度に「みんなでワークショップやってみる講座」（夏編・冬編、計 10 回）を実施しました。この講座は、ワークショップ企画を持つ市民が、自らの企画をブラッシュアップし、図書館内でテストプレイを行う、市民参加型・実践型の育成事業です。

受講者は講座を通じて、ワークショップの基本を学び、フィードバックを重ねながら内容を磨き上げ、図書館という公共空間で実践するに至りました。

受講者は「スタッフが安心できる場をつくってくれたから挑戦できた」と語り、スタッフ側もその挑戦を通じて自信とファシリテーション力を高めました。

このような“自己強化ループ”が現場で機能し、学びの循環が創出されたことが本事業の大きな成果であり、スタッフと市民の双方に成長の機会をもたらしました。

また、館長は現場に寄り添いながら、スタッフの心理的安全を確保し、対話と自律を促すリーダーシップを発揮しました。本事例は、図書館が地域の創造的実践を支える“共育の場”となりうることを示す象徴的な取り組みです。